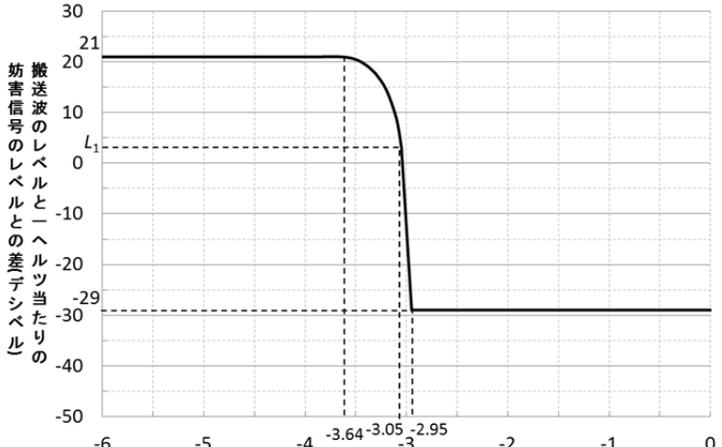
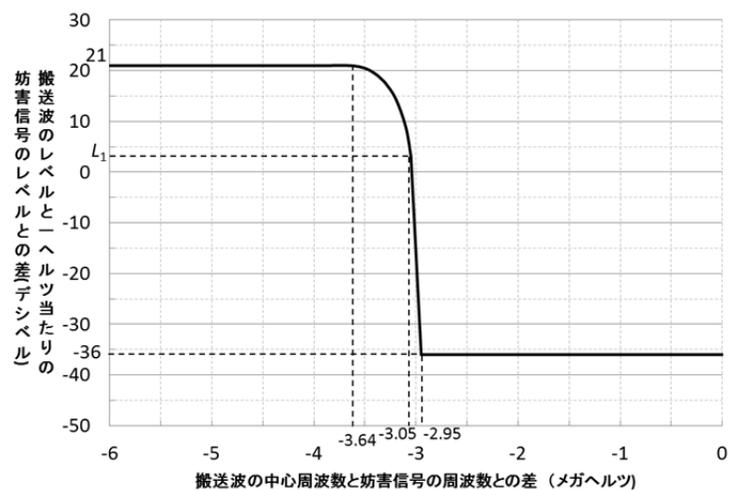


○平成二十三年総務省告示第三百十五号（有線テレビジョン放送等の受信に影響を与えることが検知されないための技術的条件を定める件）

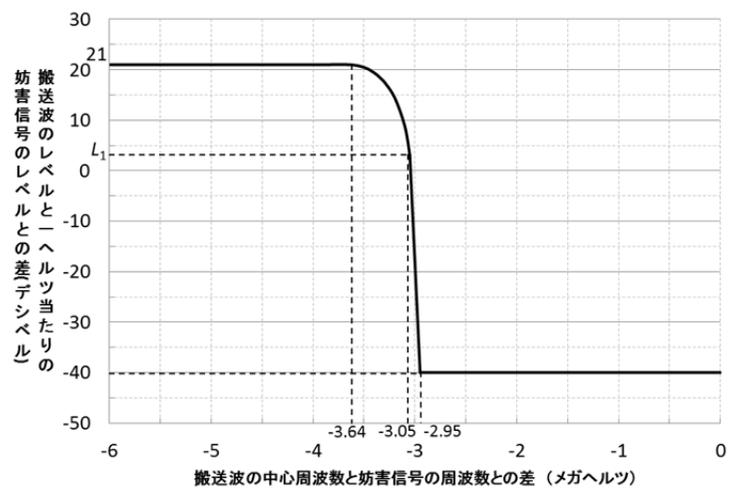
（傍線部分は改正部分）

改 正 案	現 行
<p>1～4 （略）</p> <p>別図第一号・別図第二号 （略）</p> <p>別図第三号 デジタル有線テレビジョン放送方式となっている有線テレビジョン放送等の下側周波数のスペクトルマスク</p> <p>(1)・(2) (略)</p> <p><u>(3) 搬送波の変調の型式が直交周波数分割多重変調である場合</u></p> <p><u>・副搬送波の変調の型式が二五六値直交振幅変調である場合</u></p> 	<p>最終改正：平成〇〇年〇〇月〇〇日総務省告示第〇〇号</p> <p>1～4 （略）</p> <p>別図第一号・別図第二号 （略）</p> <p>別図第三号 デジタル有線テレビジョン放送方式となっている有線テレビジョン放送等の下側周波数のスペクトルマスク</p> <p>(1)・(2) (略)</p>

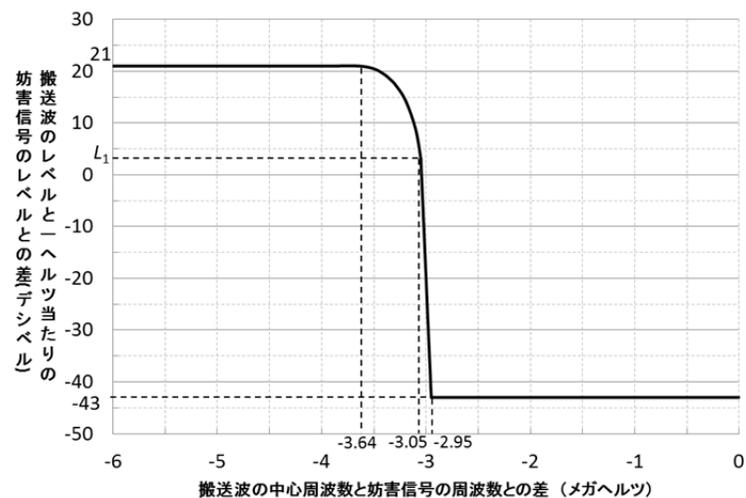
・副搬送波の変調の型式が一〇二四値直交振幅変調である場合



・副搬送波の変調の型式四〇九六値直交振幅変調であり符号化率五分の四の場合



・副搬送波の変調の型式四〇九六値直交振幅変調であり符号化率六分の五の場合



注1 一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値 (0 dB) とする。

注2 スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差 (MHz) を f 、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差 (dB) を L とする。

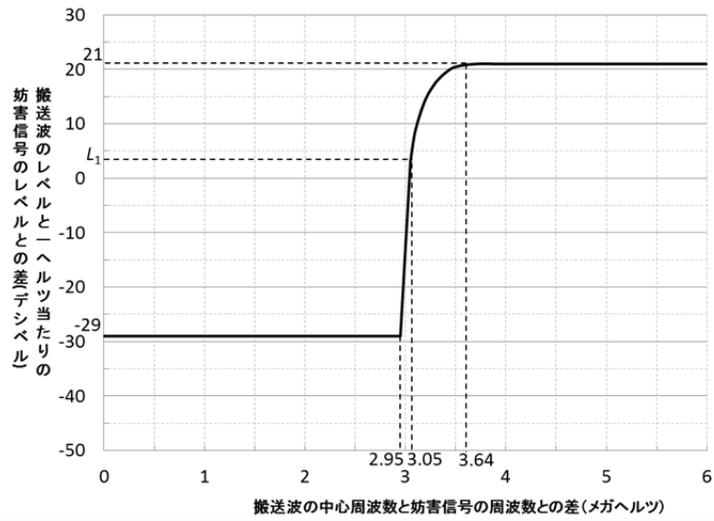
- ・ f が -3.64MHz 以下の場合 : $L = 21$ [dB]
- ・ f が -3.64MHz を超え -3.05MHz 以下の場合 :

$$L = 21 + 20 \log_{10} \left\{ \frac{1}{2} \left(1 - \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f+6) - f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right) \right\} \quad [\text{dB}]$$

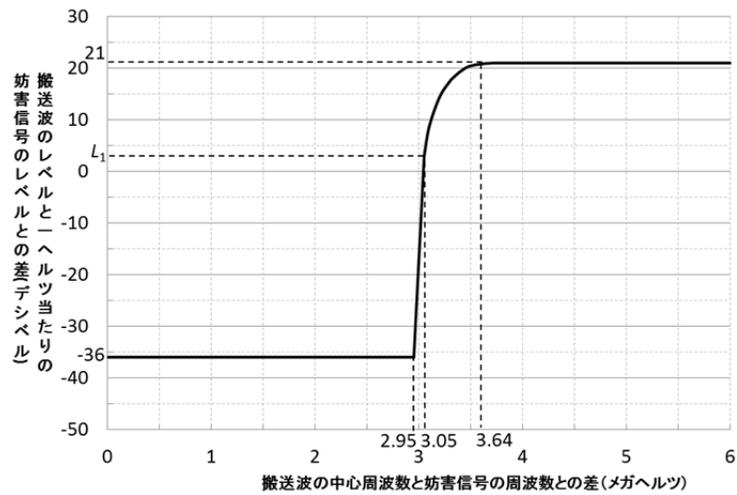
なお、 $f_0 = 5.360537$ [MHz]、 $\alpha = 0.12$ とする。

- ・ f が -3.05MHz を超え -2.95MHz 未満の場合 :

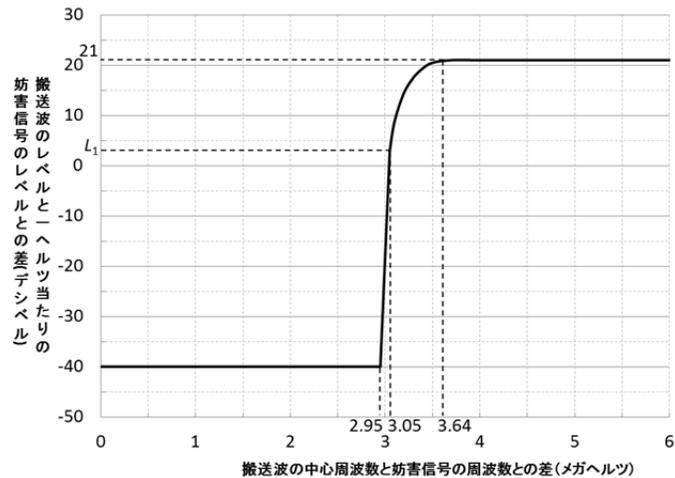
$$L = -10(L_1 - X)(f + 2.95) + X$$



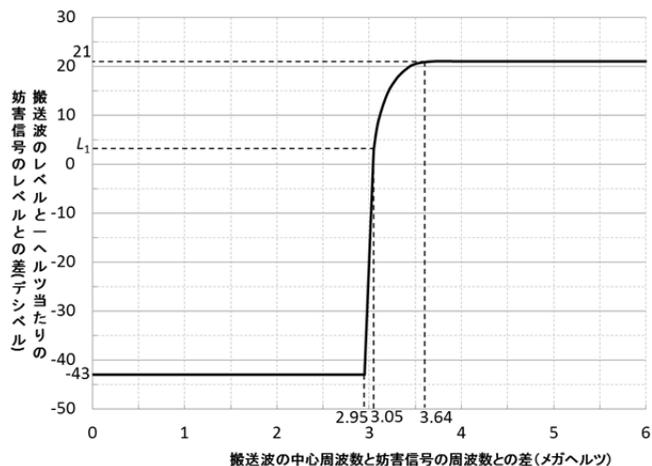
・副搬送波の変調の型式が一〇二四値直交振幅変調である場合



・副搬送波の変調の型式四〇九六値直交振幅変調であり符号化率五分の四の場合



・副搬送波の変調の型式四〇九六値直交振幅変調であり符号化率六分の五の場合



注1 一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値（0 dB）とする。

注2 スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差（MHz）を f 、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差（dB）を L とする。

・ f が 2.95MHz 以下の場合： $L = X$ [dB]

なお X の値は下表の通りとする。

<u>副搬送波の変調の型式と符号化率</u>	<u>ノイズ妨害比 X</u>
<u>二五六値直交振幅</u>	<u>-29dB</u>
<u>一〇二四値直交振幅</u>	<u>-36dB</u>
<u>四〇九六値直交振幅 符号化率 4/5</u>	<u>-40dB</u>
<u>四〇九六値直交振幅 符号化率 5/6</u>	<u>-43dB</u>

・ f が 2.95MHz を超え 3.05MHz 未満の場合：

$$L = 10(L_1 - X)(f - 2.95) + X$$

$$L_1 = 21 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 + \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f_1 - 6) + f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\} \text{ [dB]}$$

なお、 とする。

ここで、 $f_0=5.360537$ [MHz]、 $f_1=3.05$ [MHz]、 $\alpha=0.12$ とする。

・ f が 3.05MHz 以上 3.64MHz 未満の場合：

$$L = 21 + 20 \log_{10} \left\{ \frac{1}{2} \left(1 + \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f - 6) + f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right) \right\} \text{ [dB]}$$

なお、 $f_0=5.360537$ [MHz]、 $\alpha=0.12$ とする。

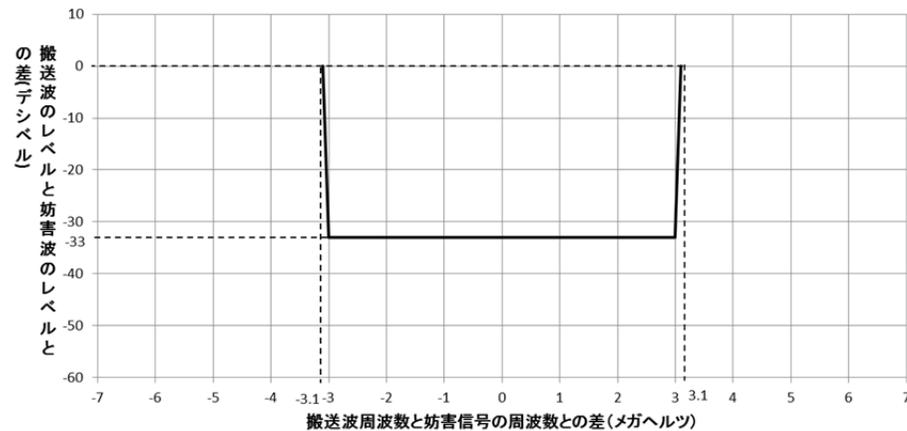
・ f が 3.64MHz 以上の場合： $L = 21$ [dB]

別図第五号 デジタル有線テレビジョン放送方式となっている有線テレビジョン放送等のスペクトルマスク

(1)・(2) (略)

(3) 搬送波の変調の型式が直交周波数分割多重変調である場合

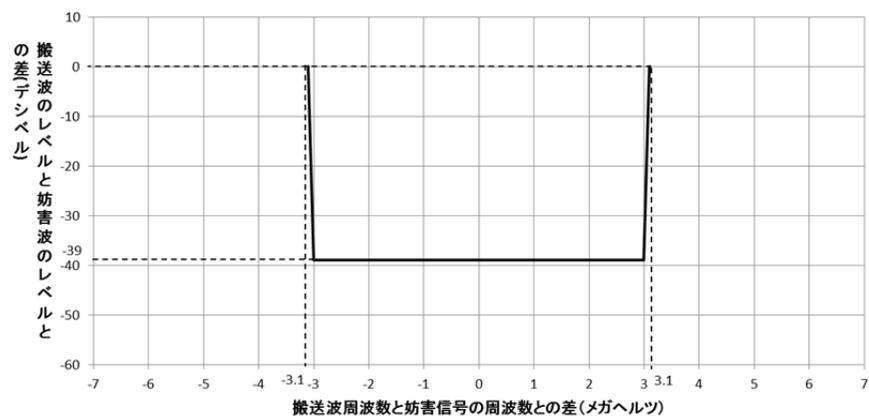
・ 副搬送波の変調の型式が二五六値直交振幅変調である場合



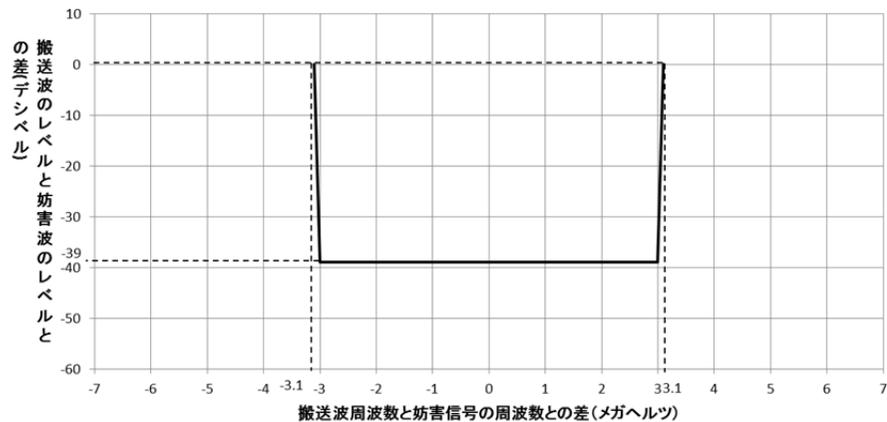
・ 副搬送波の変調の型式が一〇二四値直交振幅変調である場合

別図第五号 デジタル有線テレビジョン放送方式となっている有線テレビジョン放送等のスペクトルマスク

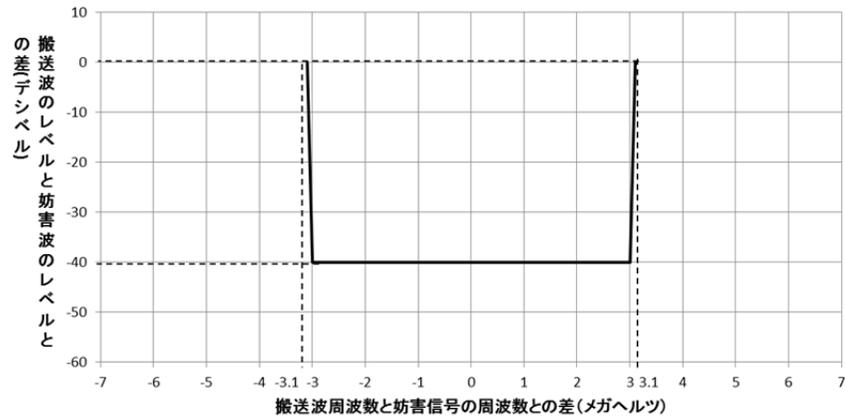
(1)・(2) (略)



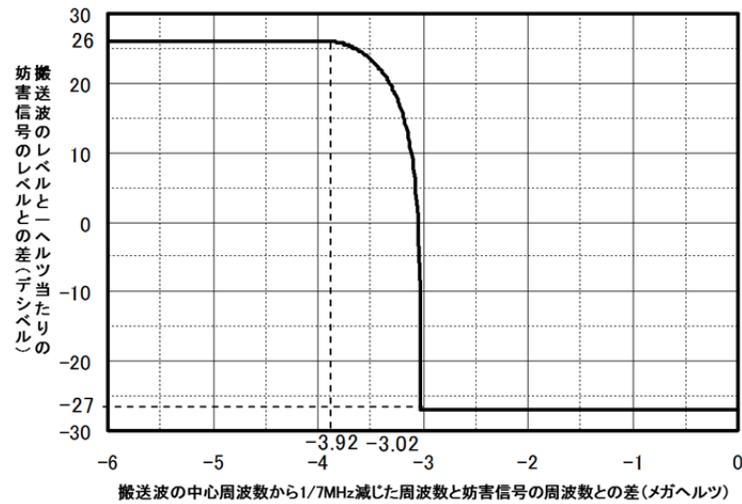
・副搬送波の変調の型式四〇九六値直交振幅変調であり符号化率五分の四の場合



・副搬送波の変調の型式四〇九六値直交振幅変調であり符号化率六分の五の場合

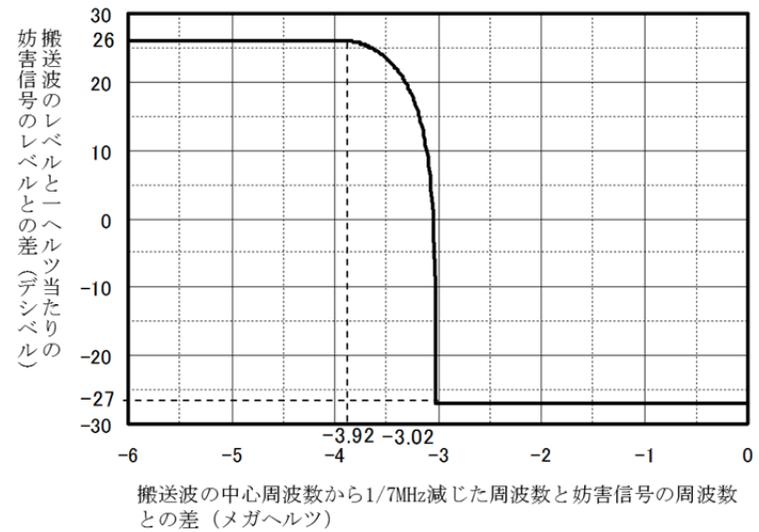


別図第六号 標準デジタルテレビジョン放送方式の下側周波数のスペクトルマスク



注1 一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値（0 dB）とする。
 注2 スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数

別図第六号 標準デジタルテレビジョン放送方式の下側周波数のスペクトルマスク



一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値（0 dB）とする。

搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベル L との差は、次の式の値以下であること。

から1/7MHz減じた周波数と妨害信号の周波数との差 (MHz) を f 、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差 (dB) を L とする。

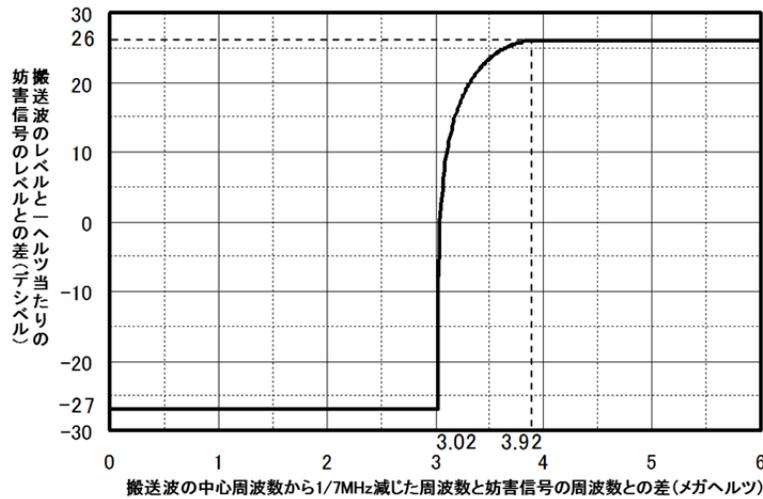
- f が-3.92MHz 以下の場合： $L = 26$ [dB]
- f が-3.92MHz を超え-3.02MHz 未満の場合：

$$L = 26 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 - \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f+6) - f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\} \quad [\text{dB}]$$

ここで、 $f_0 = 5.057$ [MHz]、 $\alpha = 0.18$ とする。

- f が-3.02MHz 以上の場合： $L = -27$ [dB]

別図第七号 標準デジタルテレビジョン放送方式の上側周波数のスペクトルマスク



- 注1 一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値 (0 dB) とする。
 注2 スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数から1/7MHz減じた周波数と妨害信号の周波数との差 (MHz) を f 、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差 (dB) を L と

なお、 f は搬送波の中心周波数から1/7MHz減じた周波数と妨害信号の周波数との差 (MHz) とする。

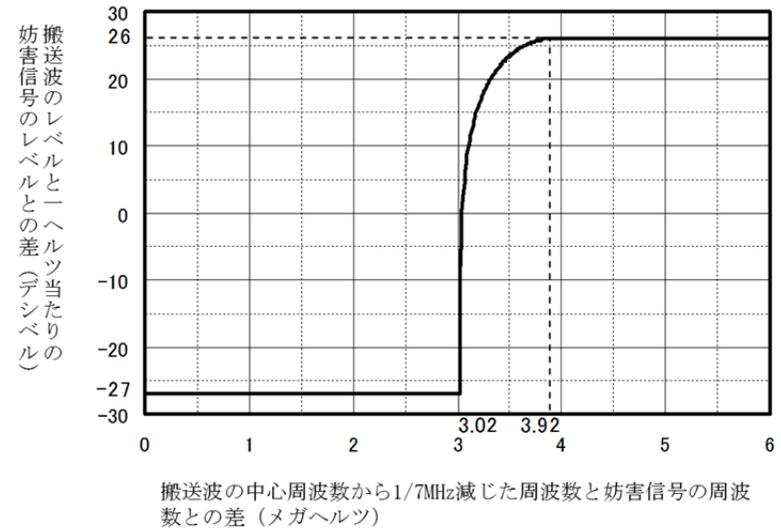
- f が-3.92MHz 以下の場合： $L = 26$ [dB]
- f が-3.92MHz を超え-3.02MHz 未満の場合：

$$L = 26 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 - \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f+6) - f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\} \quad [\text{dB}]$$

ただし、 $f_0 = 5.057$ [MHz]、 $\alpha = 0.18$

- f が-3.02MHz 以上の場合： $L = -27$ [dB]

別図第七号 標準デジタルテレビジョン放送方式の上側周波数のスペクトルマスク



一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値 (0 dB) とする。

搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベル L との差は、次の式の値以下であること。

なお、 f は搬送波の中心周波数から1/7MHz減じた周波数と妨害信号の周

する。

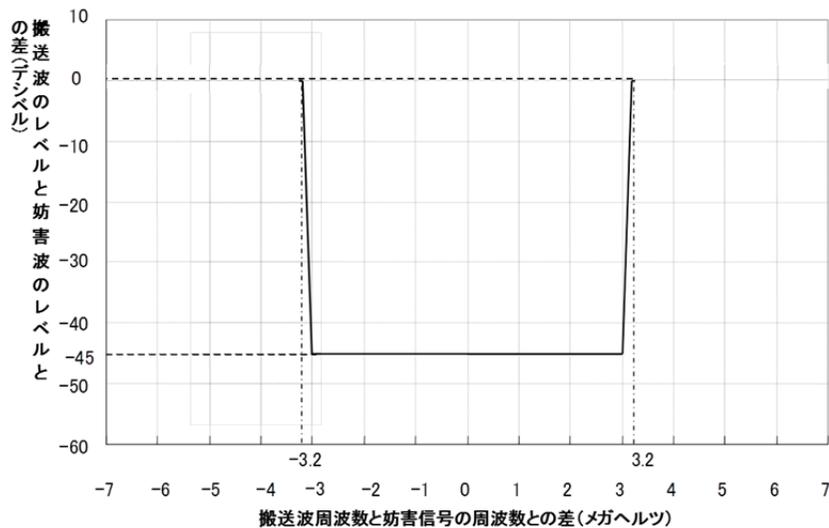
- f が 3.02MHz 以下の場合 : $L = -27$ [dB]
- f が 3.02MHz を超え 3.92MHz 未満の場合 :

$$L = 26 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 + \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f-6) + f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\} \quad [\text{dB}]$$

ここで、 $f_0 = 5.057$ [MHz]、 $\alpha = 0.18$ とする。

- f が 3.92MHz 以上の場合 : $L = 26$ [dB]

別図第八号 標準デジタルテレビジョン放送方式のスペクトルマスク



波数との差 (MHz) とする。

- f が 3.02MHz 以下の場合 : $L = -27$ [dB]
- f が 3.02MHz を超え 3.92MHz 未満の場合 :

$$L = 26 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 + \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f-6) + f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\} \quad [\text{dB}]$$

ただし、 $f_0 = 5.057$ [MHz]、 $\alpha = 0.18$

- f が 3.92MHz 以上の場合 : $L = 26$ [dB]

別図第八号 標準デジタルテレビジョン放送方式のスペクトルマスク

